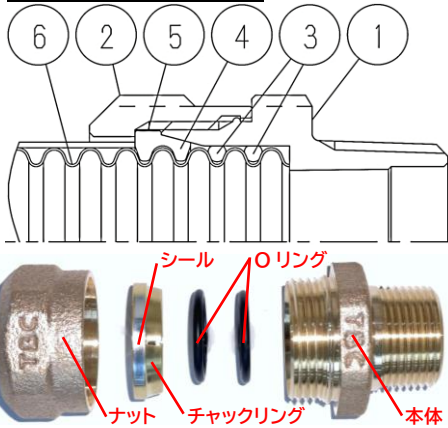


e-フレキ継手 施工手順書

構造及び構成部品



構成部品	
①	本体
②	ナット
③	Oリング
④	チャックリング
⑤	シール
⑥	e-フレキ

使用範囲


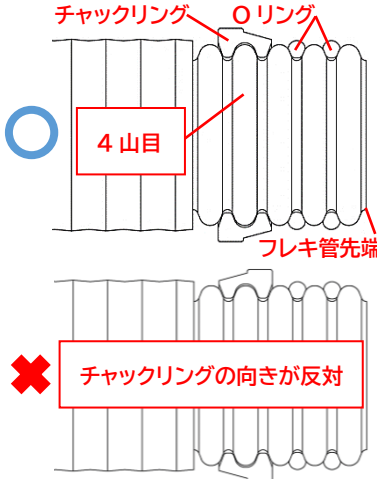


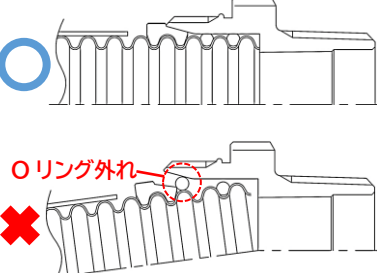

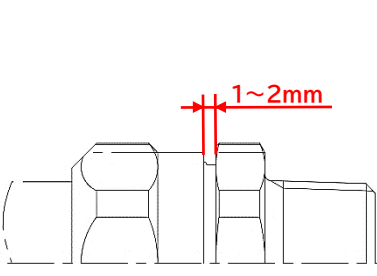
使用流体	水道水
使用圧力	1.0MPa 以下
使用温度	常温(20±15℃) ※凍結不可
使用環境	パイプシャフト内

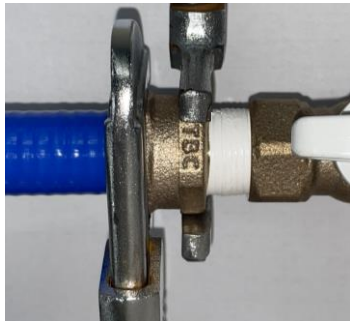
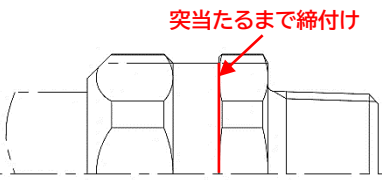
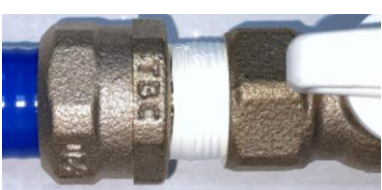


施工手順

※施工には、市販のステンレスフレキ管専用パイプカッター(以下、パイプカッター)及び被覆カッターを使用してください。

手順	作業工程	図又は写真	作業内容と注意事項
1	フレキ管の切断		<p>被覆の上から、パイプカッターを使用して、フレキ管を必要な長さより50~100mm程度の余裕をみて長めに切断してください。</p> <p>▲ フレキ管の切断には、必ずパイプカッターを使用してください。他の工具を使用した場合には、フレキ管の変形などが発生し施工不良や漏水の原因となります。</p> <p>▲ 切断前にフレキ管を真っ直ぐにしてください。曲がっていると施工不良や挿入不良、漏水の原因となります。</p>
2	フレキ管の被覆の剥離		<p>被覆カッターを使用して、フレキ管先端約50mm程度の被覆を剥離してください。</p> <p>▲ 剥離前にフレキ管を真っ直ぐにしてください。曲がっていると施工不良や挿入不良、漏水の原因となります。</p> <p>▲ 被覆の剥離には必ず被覆カッターを使用してください。他の工具を使用した場合には、フレキ管に傷などの損傷が発生し漏水の原因となります。</p>
3	フレキ管の原管の切断		<p>パイプカッターを使用して、フレキ管の原管を5山残して必ず谷部で切断してください。</p> <p>▲ 切断面にめくれ(ぼり)、へこみ(打痕)、欠損、扁平等や著しいピッチの変形のある場合は、不要部をパイプカッターで切断し、「2.フレキ管の被覆の剥離」からやり直してください。フレキ管に変形や傷付きがあると施工不良や漏水の原因となります。</p> <p>▲ フレキ管の原管の一部が切り残った場合には、無理にねじらずにその部分を繰り返し折り曲げてぼりが出ないように切り取ってください。</p>

4	本体のねじ込み	<p>仮組み</p>  <p>本体</p>	<p>仮組みされた継手から本体を外して、配管接続口にモンキーレンチ、スパナ等の工具でねじ込んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲ 他の継手、器具類などと接続する為の管用テーパネジ部はシール材を必ず使用してください。漏水の原因となります。 ▲ 仮組みされた継手から本体を外す際、構成部品の落下にご注意ください。 ▲ 落下等により傷、変形、破損がある場合は、継手を使用しないでください。施工不良や漏水の原因となります。
5	フレキ管の仮曲げ		<p>最小曲げ半径 R60 以上の出来るだけ大きな R で、かつ均等に山が広がるように曲げてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲ 最小曲げ半径を守ってください。これより小さい半径で曲げると耐久性が低下して漏水の原因となります。 ▲ 同一箇所での繰り返し曲げは 3 回以内にしてください。フレキ管が破損し、漏水の原因となります。 ▲ 継手端部から 30mm 以内では曲げないでください。漏水の原因となります。
6	ナット、Oリングの装着	  <p>Oリング</p> <p>2山目の谷</p> <p>1山目の谷</p> <p>フレキ管先端</p>	<p>フレキ管にナットを通してフレキ管先端から 1、2 山目の谷に Oリングをセットしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲ Oリング及びフレキ管外面に異物が付着していないことを確認してください。漏水の原因となります。異物が付着している場合は、傷が付かないように取り除いてください。 ▲ ナットの向き、Oリングのセット位置を間違えないようにしてください。施工不良や挿入不良、漏水の原因となります。 ▲ Oリングをフレキ管に取り付ける際、フレキ管の先端で Oリングに傷を付けないように注意してください。漏水の原因となります。傷が付いた Oリングは使用しないでください。

7	<p>チャックリングの装着</p>	   <p>チャックリング</p> <p>Oリング</p> <p>4山目</p> <p>フレキシ管先端</p> <p>チャックリングの向きが反対</p> <p>シール(シルバー色)</p>	<p>チャックリングを広げてフレキシ管先端から4山目にセットしてください。</p> <p>▲ チャックリングの向き、セット位置を間違えないようにしてください。施工不良や漏水の原因となります。</p> <p>▲ チャックリングは大きく広げると分離する構造です。万一チャックリングが分離した場合でも、適切に施工が行えるようチャックリングの外周面にシール(シルバー色)を貼付けていますので、剥がさないでください。</p> <p>▲ チャックリングは取扱いの状況によって分離することがありますが、分離した状態でもフレキシ管の適切な位置へセットし、ナットを締付けることにより継手の性能が損なわれることはありません。</p> <p>▲ 万一チャックリングが分離した場合は、フレキシ管にチャックリングをセットした状態を維持しながら管を本体に対して真っ直ぐ挿入してください。</p>
8	<p>フレキシ管の本体への挿入</p>	  <p>Oリング外れ</p>	<p>チャックリングが脱落しないように注意してフレキシ管を本体に対して真っ直ぐに挿入してください。</p> <p>▲ 斜め挿入するとOリングが所定の位置から外れたり、傷が付き、漏水の原因となります。</p>
9	<p>ナットの仮締め</p>	  <p>1~2mm</p>	<p>ナットを本体に手締めでねじ込んでください。本体にフレキシ管が十分押込まれている場合は、ナットと本体六角部のすき間が1~2mm程度まで手締めでねじ込めます。</p> <p>▲ 手締めで所定の位置までナットがねじ込めない時は、Oリングの噛み込みや挿入不足の可能性がありますので、ナットを外して「8. フレキシ管の本体への挿入」からやり直してください。</p> <p>▲ Oリングが噛み込み等により切れや変形している場合は、そのOリングを使用しないでください。漏水の原因となります。</p> <p>▲ ナット締付け用のネジにはシール剤塗布やシールテープの巻き付けは行わないでください。Oリングの劣化、異物の噛み込みを起こし漏水の原因になります。</p>

10	ナットの本締め	  	<p>モンキーレンチ、スパナ等の工具でナットを本体に締付けてください。</p> <p>▲ ナットが本体六角部に突当たるまで締付けてください。 ナットが本体六角部に突当たる前に一旦トルクが上昇しますが、そこで締付けを終了せず必ず突当たるまで締付けてください。締付け不足の場合、使用中にナットがゆるみ、漏水の原因となります。</p>   <p>▲ ナットが本体六角部に突当たらな場合は、チャックリングが適切に取付けられていない可能性がある為、ナットを外してチャックリングの方向性を確認し、[7.チャックリングの装着]からやり直してください。</p>
----	---------	---	--

※本資料記載の内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

2023.8

注意事項

1. 安全上の注意

本文中に示す注意事項は状況によって重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

2. 施工上の注意

ご使用前に以下の注意事項をお読みの上、正しくお使いください。

誤った使い方をした時には、損害を負う可能性または物的損害が発生する可能性があります。

- ・使用範囲を守って使用してください。継手の破損、漏水や機能低下等の原因となります。
- ・施工手順を守って施工してください。継手の破損、漏水や機能低下等の原因となります。
- ・急な曲げ配管で継手に負荷をかけないでください。漏水の原因となります。
- ・継手端部から30mm以内では曲げないでください。漏水の原因となります。
- ・ネジ部など鋭利な部位があるため、必ず手袋などを着用してください。けがをする恐れがあります。
- ・機器や周辺配管に接続する場合は、必ずシール材を使用して先にテーパネジ部の接続を行ってから継手とフレキ管の接続を行ってください。
- ・結露、凍結などの恐れがある場合には、保温材などで保護してください。凍結により、フレキ管や継手が破壊し、漏水の原因になります。
- ・製品仕様の使用範囲外では使用しないでください。
- ・フレキ管は1mに1箇所を目安に支持してください。
- ・薬液、油、下水、ガス、蒸気、エア、中水、雨水、井水、河川水、土中埋設配管及び冷媒配管には使用できません。
- ・水压試験の検査圧力は2MPa以下で行ってください。過大な圧力を加えますと、フレキ管に変形が生じ漏水の原因となります。
- ・e-フレキ継手は当社製「e-フレキ」の専用継手です。他の製品に接続して使用しないでください。漏水や破損の原因となります。
- ・継手の再利用は出来ません。

3. 保管上の注意

- ・継手内部に異物が入らないよう、必ずケース等に収めて保管してください。
- ・継手に過度の負荷や衝撃を与えないでください。継手が破損する恐れがあります。
- ・取り扱い中における継手の落下に注意してください。変形や損傷は漏水や機能低下等の原因となります。
- ・直射日光や雨水、有機溶剤を扱う場所を避け、継手の内部にはごみやほこりが入らないように保管してください。樹脂部品やゴムの劣化、損傷は漏水や機能低下等の原因となります。

株式会社 タブチ

〒547-0023 大阪市平野区瓜破南 2-1-56 (本社・工場)
TEL 06-6708-0150 (代) FAX 06-6708-0210

ホームページ <https://www.tabuchi.co.jp/>

ホームページはこちら▶



商品の問合せは

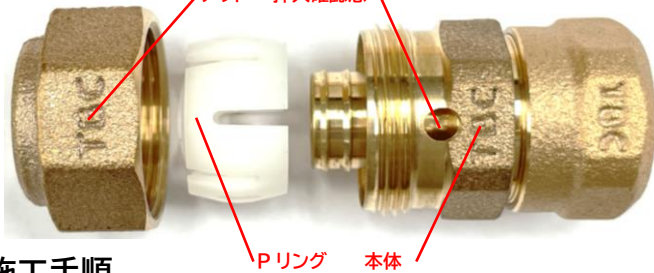
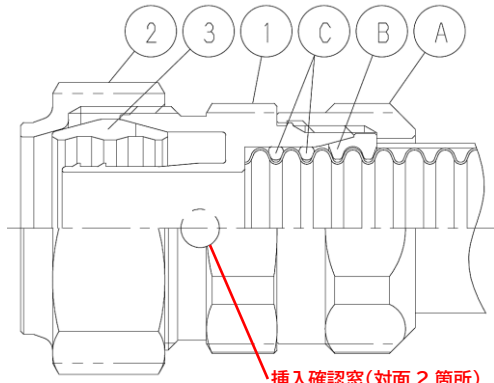
0120-481-130

受付時間 9:00~18:00(土・日・祝日・夏季休暇・年末年始を除く)

変換継手側の施工手順

品番: EFXJ-KC(-L)の場合

構造及び構成部品



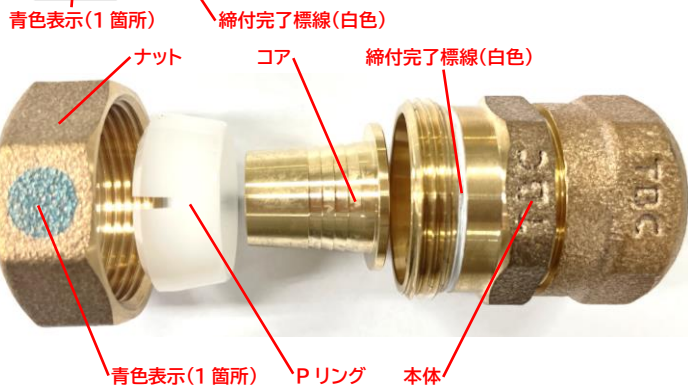
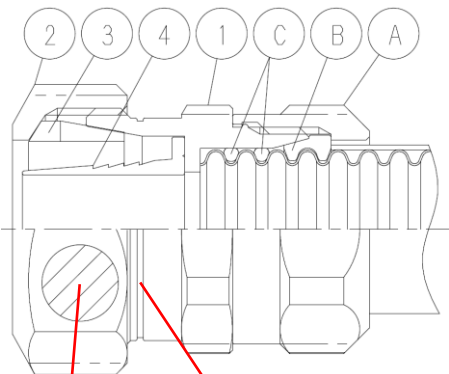
構成部品		接続管
①	本体	株式会社クボタケミックス社製建築設備用 ポリエチレンパイプの枝付き直管及び スピゴットチーズの呼び径 20 枝管
②	ナット	
③	Pリング	
A	ナット	e-フレキ
B	チャックリング	
C	Oリング	

施工手順

手順	作業工程	図又は写真	作業内容と注意事項
1	立管の挿入	<p style="text-align: right; color: red;">挿入不足</p>	<p>立管分岐部にゴミや異物の付着がないことを確認した後、ナットを少し緩めた状態で、本体の奥に当たるまで挿入してください。</p> <p>▲ 挿入確認窓から立管分岐部が本体の奥まで確実に挿入されていることを確認してください。</p> <p>▲ 立管分岐部の挿入がしづらい場合は、ナットを緩めて再度挿入してください。</p> <p>▲ 立管分岐部の挿入不足は施工不良や漏水の原因となります。</p>
2	ナットの締付け	<p style="text-align: right; color: red;">締付け不足</p>	<p>モンキーレンチ、スパナ等の工具でナットを本体に当たるまで締付けてください。</p> <p>▲ ナットの締付け不足は、施工不良や漏水の原因となります。</p>
3	完了確認		<p>立管分岐部の挿入不足及びナットの締付け不足が無い目視確認してください。</p> <p>▲ 立管分岐部の挿入不足及びナットの締付け不足は施工不良や漏水の原因となります。</p>

備考:e-フレキに接続する A,B,C の施工手順は別紙「e-フレキ継手 施工手順書」をご確認の上、施工を行ってください。

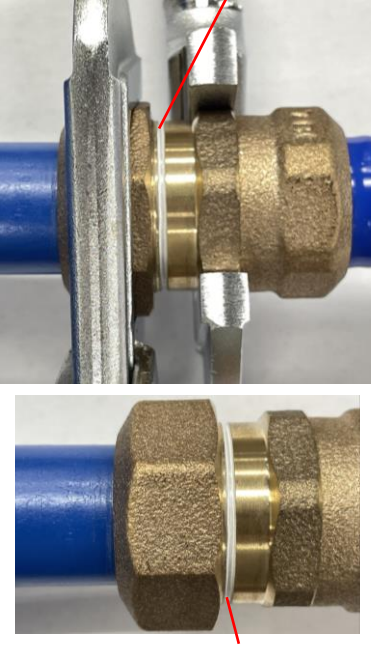
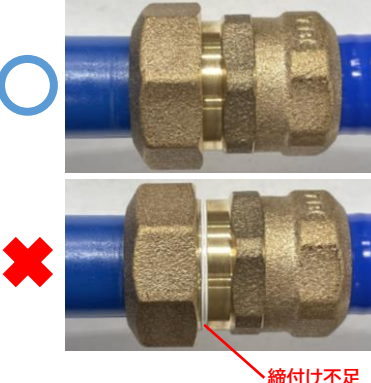
品番: EFXJ-SE(L)の場合
構造及び構成部品



構成部品		接続管
①	本体	積水化学工業株式会社製建築設備用ポリエチレン管 呼び径 20(外径 27.0±0.15、肉厚3.4 ^{+0.6})
②	ナット	
③	Pリング	
A	ナット	e-フレキ
B	チャックリング	
C	Oリング	

施工手順

手順	作業工程	図又は写真	作業内容と注意事項
1	ナット Pリングを 管に通す		ナット、Pリングの順番で管に通してください。 この時、Pリングは切れ目のある方がナット側になるよう、確認して通してください。 ▲ 管内外面に泥などが付着している場合には、ウエスなどで拭き取ってください。漏水の原因となります。 ▲ Pリングを逆に通すと漏水の原因となります。
2	コアの打ち込み		コアを管に打ち込むとき、ナットとPリングを管端から目一杯離れた状態(目安:40mm以上)で管を掴み、コアが管端面に当たるまで打ち込んでください。 ▲ Pリングが左図の「✖」の状態のコアを打ち込むとPリングが管に食い込んで漏水や管が継手から抜け出す原因となります。 ▲ コアの打ち込み不足は漏水や管が継手から抜け出す原因となります。 ▲ 施工手順以外の施工は、Pリングに破損や変形等が生じ、漏水や管が継手から抜け出す原因となります。 ▲ 低温環境下でのコア打ち込み作業は打ち込みしづらい場合がありますが、必ず左図のように管端面にコアが接触するまで打ち込んでください。

3	ナットの締付		<p>コアを打ち込んだ後、本体に管端を差し込み、ナットを工具で締付けてください。ナットの締付けは、本体にある<u>締付け完了標線(白色)が全周で見えなくなるまで締付けてください。</u></p> <p>▲ ナットと本体の六角面に工具を用いて、二丁掛けして締付けてください。</p> <p>▲ 管端面に(P リング及びコア含む)が本体の奥の壁に当たるまで差し込んだ状態で締付けてください。差し込み不足は、漏水や管が継手から抜け出す原因となります。</p> <p>▲ 本体に管が入りにくい場合は、ナットで Pリングを管端の方へ寄せるように押し込むことで、ナットのネジがかかるようになります。</p> <p>▲ 無理にナットを本体に接続した場合、適切にネジがかみ合わず、ネジの破損、ナットの変形、漏水や管が継手から抜け出す原因となります。</p>
4	完了確認		<p>ナットが適切に締付けられていることを目視確認してください。ナットの真横から見て締付け完了標線(白色)が見える場合は、さらにナットを締付けてください。</p> <p>▲ ナットの締付けは、ナットの端面で本体の<u>締付け完了標線(白色)が全周で見えなくなるまで締付けてください。</u></p> <p>▲ ナットの締付け不足は、漏水や管が継手から抜け出す原因となります。</p>

備考:e-フレキに接続する A,B,C の施工手順は別紙「e-フレキ継手 施工手順書」をご確認の上、施工を行ってください。